

きらり飯塚

能楽師(観世流シテ方)、「木月靖謳会」主宰、「飯塚能の会」主催
木月 晶子 さん



【所属団体】日本能楽会、公益社団法人能楽協会九州支部、
福岡市能楽協議会

【賞歴】重要無形文化財保持者(総合認定)、
国際ソロプチミスト飯塚 女性栄誉賞

【座右の銘】初心忘るべからず

女性能楽師は数少ない存在ですが、女性ならではの苦労などはありますか。

私の家は祖父(木月靖芳さん)の代から能を始め私で3代目です。私はお稽古を3歳から始め初舞台は9歳のときの「鞍馬天狗の花見」という舞台でした。

能も男性社会なので、男性の方が有利な面もありますが、他の伝統芸能と比較しても開けた世界です。プロの女性能楽師もたくさん認められています。女性能楽師の先輩方が頑張られて、今の能楽の世界があると思っています。

日本文化には後継者不足で存続が厳しいものもあるのではないかと推測します。
能の世界はどのような状況ですか。

プロの能楽師になる人は今はそれほど減ってはいませんが、能楽の世界でも文化の裾野を支える一般のお稽古をされる方が激減しています。今、それが大きな悩みです。

能楽は難しいという印象かもしれませんが、能を鑑賞するときは、本を読むような気持ちで、自分の想像でふくらませて楽しんでほしいです。

国際交流の機会は増えていますが、日本人は自国の文化を紹介することが苦手と言われていました。自国の文化について何も話せないというのは、海外の人から見るととても奇異な印象のようです。日本文化を知ることが、国際化の時代において重要なことなので、能楽をはじめとする日本の文化に、多くの人に興味をもってもらえたらと思っています。

今後飯塚市でどのような活動をしたいとお考えですか

今後も飯塚市で演能会を続けていきたいです。祖父が昭和12年より飯塚市で能の会を始め、父(木月達雄さん)の代から年に2回飯塚定期能を開催し、今は私が「飯塚能の会」として開催しています。飯塚市に能に興味をもってくださる人を増やしたいと考えています。

子ども向けの伝統文化体験能教室も、始めてから20年になります。これは能を次世代の子ども達に知ってもらうために始めました。能のお稽古は、能の台本である謡本を使い、謡を謡ったり、仕舞という能の舞いどころを舞うといったところから経験を積み、舞囃子(まいばやし:着物で能の一部を舞うこと)や能を舞うこともできます。

来年2月にはコスモスコモンで飯塚能の会を開催しますが、小学生から18歳以下の方250名は無料で鑑賞いただけますので、ぜひ多くの方に観に来ていただきたいです。

女性へのメッセージ

私は能楽師の家に生まれ、恵まれた環境にありましたが、お弟子さんを始め多くの人に支えていただきましたので、女性には「人とのご縁を大切に、志をもって、自分にできることは何だろうと考えながら頑張っていれば、必ず応援してもらえると思います。」と伝えたいです。

2023年の日本のジェンダーギャップ指数は世界146か国中125位と過去最低でした。政治、経済分野における男女格差が埋まらず、他国の男女格差解消の取組が進む中、日本の格差解消が遅々として進んでいない状況が明確になっています。

●お問合せ 男女共同参画推進課(☎内線1425)